

あんなこと こんなこと 一緒にやってみよう…

自分がしてもらわなかつことはできません。
わからないこと、苦手なこと、人には聞けなかつことなど…一緒になら怖くない！

“Nobody's Perfect”



家事分担のお手伝いと
お小遣いの家族会議



役所の手続きは
難しい(ーー;)



学校行事は苦手…



児童養護施設に家族の代わり



注射がんばろう… 11

こんな良いことも…



事例 ①母の生育歴

Aファミリー (母、子ども3人)	Bファミリー (母、子ども2人)	Cファミリー (母、子ども2人)
<ul style="list-style-type: none"> ・家事や子育ては祖父 ・幼少期に両親離婚 ・母と暮らすが母の精神疾患により父の所へ ・父が再婚、居場所なし ・お母さんと呼んだことはない ・低学力 ・衣服が不衛生のため学校でいじめ ・父ギャンブル依存、借金 ・高校選択余地なし ・高校生で家出 ・高卒後寮付き職業転々 ・結婚出産 ・路上生活も 	<ul style="list-style-type: none"> ・母がギャンブル依存、借金 ・肩代わり祖母死亡、借金は増える一方 ・家はゴミやガラクタだらけ。片付けられず、不衛生 ・学校では友人関係は作れず ・いつも父と「今日はどこにお金を借りに行こうか」とヤミ金回り ・全員自己破産 ・自暴自棄 ・結婚歴なし2出産 ・困窮、不衛生、子ども乳児院 	<ul style="list-style-type: none"> ・生後すぐから乳児院、児童養護施設で育つ ・転居をくり返し、家族で路上生活も ・学校の給食が1日1回の食事 ・ライフラインがすべて止まった家にひとりぼっち ・母親から教えてもらったことは?との問い合わせに「万引きのやり方だけ」 ・児相や施設を脱走 ・修学旅行には参加 ・中学卒業・施設退所後祖父引き取り ・母がバイト代をたかりに来た ・結婚後DV逃亡

事例 ②出会った頃の困窮状態

Aファミリー (母、子ども3人)	Bファミリー (母、子ども2人)	Cファミリー (母、子ども2人)
<ul style="list-style-type: none"> ・母:離婚後生活保護脱するためダブルワーク ・子どもたち夜間徘徊、一時保護 ・基本的生活習慣 無 ・学校準備、宿題、連絡できず ・学校との関係悪 ・自宅ごみ屋敷状態 ・衛生面、栄養面に難 ・母:子ども放置、子育てに困惑 ・母:家事できず(寮食事) ・子:学校での問題行動 ・子:学力低 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅ごみ屋敷状態 ・衛生面、栄養面に難あり ・学校との関係悪 ・機関との関係悪 ・祖父(母の父)死亡により経済的破綻 ・母:精神的課題 ・母:アルコール依存 ・母:飲酒時子どもへの虐待 ・子:学力低 ・子:障害あり母認めず 	<ul style="list-style-type: none"> ・母:家事苦手(施設) ・母:家計管理苦手 ・母:子育てに困惑 ・学校との関係悪 ・母:男性関係難あり妊娠により婚姻 ・子:健診未受診、予防接種未接種 ・子:学力低 ・子:障害あり母受け入れられず

事例 ③現在の様子と連携先

Aファミリー (母、子ども3人)	Bファミリー (母、子ども2人)	Cファミリー (母、子ども2人)
<ul style="list-style-type: none"> ・家事ができるように ・衛生的に ・甘えられるように ・問題行動減 ・子ども学力向上 ・気持ちや考えを言葉で伝えられるように ・母の希望の就職 ・親子関係良好 	<ul style="list-style-type: none"> ・引っ越しして衛生的に ・自宅は綺麗をキープ ・母のアルコール依存減 ・子どもたち学力向上 ・母の夢～子どもの高校進学がかなう ・母は就労準備事業から作業所に。就労を目指す ・色々な人と仲良く 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校でのトラブル減 ・自宅の整理整頓、掃除OK ・学校にも誰かと一緒に行かれるように ・言葉で伝えることができるようになり、親子ともに怒鳴ったりキレたりが減 ・子どもにとって良いことを考えられるように
<p>《連携》</p> <p>小学校、中学校、 学童保育、保護課、児童相談所、SSW、警察、病院、GC、 家計相談、 就労準備支援、 抱樸サポート</p>	<p>《連携》</p> <p>児童相談所、 子ども家庭相談C、 保護課、小学校、 中学校、放課後デイ、 病院、訪問看護、 特別支援教育相談C、 就労準備支援</p>	<p>《連携》</p> <p>小学校、保護課、 子ども家庭相談C、 放課後デイ、 母病院、子病院、 特別支援教育相談C、 抱樸サポート</p>

事例 ④母から見た抱樸の支援による変化

Aファミリー (母、子ども3人)	Bファミリー (母、子ども2人)	Cファミリー (母、子ども2人)
<p>「話すことができるようになりました。話す相手ができた。それまでは子どもや夫と話すこともあまりなかったので。」</p> <p>「子どもたちは自分の意見を言えるようになりました。自分はそれを聞けるようになった。子どもと話しをできるようになりました。子どものことを可愛いと思えるようになりました。たまに、もういい！ってなることはあるけど(笑)」</p> <p>「子どもたちは勉強もするようになりました。」</p>	<p>「学校や行政のように「しっかりしなさい！」という感じではなく、「ママのペースでいいよ」「大丈夫よ」という感じで接してくれる親代わりのような支援員がいることが心の支えになって頑張れる。」</p> <p>「もっと早く、抱樸に出会えていたら、子どもを乳児院に預けることなく、子どもの父も去ることなく、家族は守られていたかもしれない(涙)」</p> <p>「抱樸に繋がっていなければどうなっていただろうと考えると怖い」</p>	<p>「子どもの学校のことなど、いろんな手続きは大変。今しなければことがわからなくなってしまうことがよくある。予防接種や健診も受けていなかった。そうした手続きを一つ一つ支援員と一緒にクリアできるようになっている。すべきことを順序立てて整理してくれるところが助かる。」</p> <p>「支援員に出会うまでは、子育てするときにわからないことがあっても相談するところがなくて放り出してしまっていた。」</p>

事例 共通していた点

母の生育歴

- ・家族の相互扶助や養育の機能が弱く、社会資源が乏しい家庭で生育
- ・家事等の生活スキルについても、暮らしの中で学ぶ機会が乏しい
- ・結婚後の配偶者も社会資源が乏しく、困窮状態に陥ると脆い

支援後

- ・急速に家事力、子育て力が上がっていく
- ・困ったときに助けを求められるように

17

まとめ

困窮孤立状態におかれた子どもたちへの支援とその負の連鎖を防止する



親が変わらなければ子どもの生活は変わらない



子どものみに特化する支援だけでは改善されない

But!!

実は…親も以前は子どもと同じ、またはそれ以上の状況に育ったという事実



子どもの親や家族を支援しなくては効果や持続性がのぞめない



子どもと家族をまるごと支援する

子どもの支援と同時に親の子ども期の取戻しの支援。親の育ちなおし。



自立とは…困ったときに「助けて」と言えるようになること

(つながりのない自立→孤立、社会資源はたくさんある→つながれるチカラ)



ありがとうございました

昨年度のシンポジウム＆その後、部活応援募金にご協力くださいました皆さま
本当にありがとうございました！
おかげさまで子どもたちが新しい希望をいただきました…



いつも子どもたちを応援してくださる皆さま
ありがとうございます！
今後とも応援どうぞよろしくお願ひいたします！！

「中卒SNEP」の把握方法 について(第1事業)

研究担当者：坂本毅啓・工藤一成・工藤歩

報告者：工藤歩(北九州市立大学 非常勤講師)

2019年1月31日

(Solitary Non-Employed Person)

- SNEP=「20歳から59歳の、結婚したことがなく、学生でもなく、家族以外との人付き合いがない孤立状態にある無業者」



- 中卒SNEP=義務教育終了によって公的な機関（学校・教育委員会等）と繋がりが薄まる（→『社会的孤立』高リスク予備軍）



早期対策、早期支援が不可欠

『中卒SNEP』の現状

- ・義務教育終了後の卒業時における進路未決定者については、そのまま『中卒SNEP』状態となり、高卒中退者も含めその後の実態を把握することが困難となり、「孤立状態にあるこどもたち」となるリスクが高い
- ・これらの者がその後、長期的な引きこもり状態になったり、反社会的集団に取り込まれるリスクを考えると、早期における支援が重要である
- ・長期間「社会的孤立」が続くことを防ぎ、地域社会に包摂的に支援していくことは、特に今後の大きな課題である

北九州市における中学校卒業後の (進路) 状況について

	中学校卒業者総数	8903		
進学者	1. (A)高等学校等進学者		8691	
	2. (B)専修学校(高等課程)進学者		46	
	3. (C)専修学校(一般課程)進学者		8	
	4. (D)公共職業能力開発施設等入学者		19	
就職者	就職者(上記A・B・C・Dを除く)		30	
	上記A・B・C・Dのうち、就職している者			2(再掲)
その他	上記以外の者		109	
	不詳・死亡の者		0	

北九州市ホームページ「市政情報・統計・調査・報告」北九州市の統計、分野別索引

北九州市統計年鑑「教育・文化」、学校基本調査第16-10表『中学校卒業後の状況』より

2019年1月30日13:45確認

研究・調査の意図

- ・ そうした『中卒SNEP』を支援を実施するためには、その実態把握が早急に求められる
- ・ 実態把握がどこでどのように行なわれているかは、現状では明らかになっていない
- ・ 実際はこれらの現状把握について行なわれているのか、そして今後把握をするならば、どのような手法が可能なのかを検討する
- ・
- ・

X地域におけるヒアリング

発端→ではどうしたらそれらを把握出来るのか？

情報よりX地域において1960年代より全体的な把握を行なえる仕組み作りを実施
(子どもの『教育を受ける権利』の視点からの基盤整備)



当該地域の歴史的・地理的背景等をベースに、各学校(教員)、PTA、行政(教育委員会)等が一体となったシステムづくりの構築

具体的状況

- ・実際の数字の把握は中学卒業時における『進路アンケート』を元に把握
- ・中学校教員と、高校教員が連携し、ある程度の期間までの実数把握を担保(→中学校教員による全校訪問を実施)
- ・教員組合を中心となって活動が行われてはいるが、あくまで教員の『職業的使命感』を元に行なわれている、教員を中心として設立された『任意の自発的組織』の活動である
- ・
- ・

＜ポイント＞

- ・『子どもの人権』の観点から地域で子どもの育ちを見守る
- ・活動をあまり枠にはめたり、フォーマルなシステムに乗せず『ゆるやかな枠組み』とすることで全体の活動が成り立っている(公的な仕組みでないことが、プラスに作用)
- ・多くの教員が「『子どもの人権の観点』を踏まえて地域全体で問題を見る」という視点で活動を支えている
- ・情報共有の枠組みが出来たことによって、ケース会議等の開催が可能となり、支援の引き継ぎ、連續性が担保出来るようになった
(→「学習支援を入口に生活支援への連携」)
- ・

<今後の展開>

- ・各市町村レベルの差はあるにしても、一定程度の「数の把握」は行なっている可能性がある

↓

それらの情報をどう把握し、今後の支援体制の構築に活用していくか

- ・こういった情報と支援体制が結びつくことによって、教育現場においても、子どもの支援という視点においても有益な体制をつくることが出来るのではないか

・

・

2018年度 厚生労働省 社会福祉推進事業シンポジウム(NPO法人抱樸主催)
『北九州 子ども・家族marugotoプロジェクト』と
困窮世帯を支える地域ネットワークについて考える

児童養護施設退所者への 「見守り」に関する調査報告（第2事業）

稻月・西田・田北・堤（報告）
2019年1月31日
於 新小倉ビル地下1階 6号会議室

第2事業

高校卒業時、家族に頼ることができない
孤立状態にある子ども・若者に対する
居住・就労・生活の一体的支援の在り方に
関する調査研究とパイロット事業の実施

事業目的

- 家族がない状態で高校を卒業する子どもたちは、そもそも相談相手がない孤立状態に陥る傾向

→就職、居宅、社会生活など
切れ目のない支援が必要

事業目的

- 児童養護施設等を退所する子どもの場合、退所後社会的孤立状態に至りやすい傾向にあり、継続的なケアの必要がある。

課題

1. 保証人の問題

居住確保時の保証人確保、就労時の保証人確保

2. 就労の問題

寮付きの就労（失業＝居所喪失）を探すなど、
選択の幅が狭い

3. 生活の問題

一人暮らしに家族資源を活用し難い
生活の安定、金銭管理等への不安

課題への対応

1. 保証人提供

2. 見守り付きの住宅

3. 就労継続や再就職の支援

→孤立を防ぎ社会参加できる仕組みを
一体的に実施する仕組みづくり

→生活困窮者自立支援制度の活用可能性を
検討